

# 挑戦

題字 挑戦 揮毫 字和島市立吉田小教諭 中田 智之 解説は3面



発行所  
（公財）愛媛県教育会  
〒790-8545  
松山市祝谷町1丁目5-33  
エスポワール愛媛文芸会館内  
電話 (089) 945-8644  
FAX (089) 945-1459  
E-mail info@ehime-kyouikukai.jp

- (2) 学校紹介 東温市立上林小学校
  - (3) ふるさとに生きる
  - (4) 旅・たび
  - (6) (7) 日連教栃木大会印象記
  - (8) ふるさとスケッチ
- ローカルトピックス

## 民話で遊ぼう！



フリーライター

太田 由美子

次は何が出てくるんだろ：  
目をキラキラさせて前を見つめる子どもたち。突如、教室の後ろから鬼たちが歌いながら登場すれば、ウワァーと大歓声——私たちの出前講座はこんなふうに関わります。

この出し物のきっかけを与えてくれたのは、砥部の広田小から麻生小に異動した校長先生でした。広田の民話や歴史をあちこちで紹介していた私に、合併で一緒になった旧砥部地区の子どもたち（小学三年生）に、民話を通して旧広田村のことを伝えてほしいという依頼でした。

つわる民話を芝居仕立てにして、即興で先生たちに演じてもらうということでした。それぞれのお話の前に役者と鳴り物係を募ります。主要な役は先生に、鳴り物やカッパの子分などは子どもたちに割り振るのですが、「やりたいい人！」の問いかけに、「ハイ」「ハイ」「ハイ」と一斉に手が挙がります。

今年もまた同小からお声がかかりました。今年の三年生はどんな顔を見せてくれるかな。小道具を修理しつつ、ドキドキしながら新たな出会いを待つ日々です。

「奨学金破産」の現実が放映されていた。奨学金の返還が滞り、延滞金等も加算され、破産せざるを得ない現実が増えているということである▼どうも「豊かな国日本」は、はるか過去の夢であり、現実は特に若者にとって極めて幸福感を得づらい社会になっていくことを認識せざるを得ない。行き過ぎた個人主義の蔓延や極端な少子高齢化によるいびつな社会構成の中で、どうしても立場の弱い者がしわ寄せを受けてしまう▼GDPに占める教育費の割合が世界でも最下位に近い状況がいつまで続くのか。教育に充当されるべき金額はどこに流れているのか。若者が将来への夢を紡ぐための尊い学びの機会が損なわれる現実をどうとらえるのか▼オリンピックで優れた成績を収めることも大切であろうが、誠実に現実に向き合いながら厳しい日常の中で呻吟する若者の背中をそっと押し、明るい未来への歩みを踏み出せるような社会を創出してほしい。

・編著書に『村の記憶』（愛媛出版文化賞）『続広田村誌』『民話の里ひろた』など

- 一略 歴一
- （おた・ゆみこ）
- ・神奈川県出身
- ・昭和五十年 神奈川県立外語短期大学英語科卒業
- ・平成六年 松山出身の夫、四人の娘とともに、神奈川県厚木市から旧伊予郡広田村に移住
- ・民生委員、広田村文化財保護審議委員、県文化財保護指導員などを経て、現在は砥部町文化財保護審議会委員、砥部町図書館協議会委員

「もういいかい？」「もういいよー」の声で「はじまり、おなじみの先生がすまし顔

ひとこと

民生・児童委員さん等との連携協力



県児童委員協議会 会長 堀内 壽夫  
愛媛県 小中学校 副会長

人に近い子どもであっても、数年前は中学生でしたから。」と言つて、情報提供をお願いしています。もちろん、地域行事や夜間パトロールなどで行動をとるにすることを充実させています。

民生・児童委員さんには守秘義務があります。児童虐待を受けていると思われる事案などについて、児童相談所に相談・通告する役割があります。「近所付き合ひのことを考えると相談・通告を躊躇することがある。」とおっしゃるので、「相談・通告しづらい場合、中学校はご協力します。」と伝えました。すると、生徒に関して、様々な情報を得ることが出来るようになりました。

「それは地域の問題。こちらは学校の問題。」と区別するのではなく、学校と民生・児童委員さんはじめ地域の方々として生徒を見守る情報連携・行動連携を一層進め、健全育成の質を高めて参りたいと思います。

(松山市立久米中学校校長)

学校紹介

No.173

東温市立上林小学校

PTA皿ヶ嶺教育キャンプ

上林小学校では毎年夏休みに、PTAの活動で皿ヶ嶺に一泊二日のキャンプ登山をしています。今年度は、七月三十日、三十一日に行いました。風穴のある場所から約一時間かけて、一年生から六年生までみんな一緒に愛媛県屈指の湿原「竜神平」まで登ります。低学年の荷物を高学年がさりげなく持つっている光景は、優しさを感じたり、成長を見る事ができたりする恒例の一場面です。「竜神平」でお弁当を食べ、おいしい空気とともにひとしきり遊んだ後、皿ヶ嶺の頂上まで約三十分かけ、登頂登山に挑戦します。登りついたその場所からは、なにもにもかえられぬ美しい景色が見られました。眼下には東温市内が一望でき、上は空のみしか見えません。

キャンプ場まで下山し、飯ごう炊さんを行うための火おこしをします。日常なら文明



の利器を利用し一瞬でつく火が、なかなかつきません。二人組になって協力し、火おこし器を回し、木に穴をあけ呼吸を合わせて摩擦によって火をおこします。保護者の方の、目を離さずに手を出さない姿勢が、とても印象に残っています。火とはこんなにも貴重で大切なものであることを、否が応でも学ぶことができました。

夜のとばりが降りるころ、キャンプファイヤーが始まります。燃え上がる火を囲み、子どもたちの出し物やゲームなどで盛り上がりました。その後、自分たちで張ったテントのついに全員が入って消灯までの間おしゃべりタイムです。そして大自然に包まれ、子どもたちは眠りにつきます。

また、キャンプ中、緑の少年隊の活動の一環として、環境ポスターをキャンプ場や風穴にある掲示板に貼って、環境保全を呼び掛ける活動も行っています。

(教頭 熊田 堅)



俳画・水墨画教室 山口 恭子 作

題字に寄せて

挑戦



吉田市論 智之  
宇和島教 中田

何事をするにも、まずは挑戦することから始まります。次に絶え間なく継続し、やがてそれなりの成果が表れることでしょう。

以前勤めた学校で、校長先生が、全校児童の前で書道パフォーマンスのように広い用紙に「挑戦」と書かれました。その時のことを昨日のこのように思い出します。

リオのオリンピックでも選手たちが日々挑戦し続け、素晴らしい成果を挙げ、世界に感動を与えました。それは、努力の賜だと思えます。しかし、たとえ報われなかったとしても、いつか必ず花咲く日が来ることに信じます。人生は、日々「挑戦」です。

ふるさとに生きる

「音楽」と「ふるさと」を愛して



進藤万壽子先生

訪問者 田尻淑恵

(四国中央教育会)

No. 88

今年の一月三十一日、土居文化会館ユーホールは満員に近い人たちで埋まった。四国まん中アートコロニー主催の四国中央市初のオペラコンサートを楽しもうという人たちだ。舞台には、イタリアで活躍している演出家堀岡佐知子氏の歌唱指導によるオペラの有名な場面と会場に響き渡る素晴らしい歌声が溢れた。

その舞台を熱い思いで見つめる人、進藤万壽子先生がこのコンサートでの立役者である。この日のソリストは、先生の教え子の井上ゆかり氏を代表とするブランドイーヴァの皆さんで、イタリアで七年間の研鑽を重ねた彼女の歌声は観客を魅了した。また、先生の発案で、市内の合唱団の五十名近い人たちもバックコーラスで参加した。音楽教師と

して多くの子どもたちにその楽しさや素晴らしさを教えてこられた先生の尽きることはない音楽と地域の人々を愛する心が、この日のコンサートを大成功に導いたのだ。観客は本格的なオペラ歌手の音量に圧倒され、イタリア語で歌う舞台に魅了され、二時間があつという間だったと口々に感動した感想を伝えてくれた。進藤先生はまた、素晴らしい演奏家のコンサートには地域の沢山の方々に呼びかけてチケット手配やツアーを組んで鑑賞に出かけるなど、地域の音楽文化の向上にも尽くされてきた。バイオリンリストの川島成道氏の演奏会や氏との会食なども先生のお力添えで実現し、今も私たちの素敵な思い出となっている。加えて、誰もまねできない凄いとこころは、演奏会の皆さ



んの感想を手書きでまとめられ、それをコピーして配達して感想を共有して下さるところである。小さい文字でびっしりと想いのつまった文章に一人ひとりを大切に思ってくださいのお心が感じられる。先生の指導を受けた教え子の多くが今もピアノ教師をしたり、音楽療法を取り入れたボランティア活動で児童館や施設を訪問したりして地域のために尽くしている。音楽の魅力を忘れられず他教科の教師でありながら音楽科の免許を取得した人もいて、音楽の魅力を次世代へ繋いでいる。いつお会いしても背筋をびしっと伸ばし、衣食住をきちんと整えられている進藤先生は、今年米寿を迎えられたとは思えないほど若々しい。こ



れからもお元気で、音楽を愛し、地域の方々に温かいお心をかけていただきたい。  
進藤 万壽子 先生 (87歳)  
(四国中央市川之江町在住)

足跡をつづる。私を記す。形に残す。  
あなたが主人公のドラマを未来に伝えませんか。

受賞作品 多数制作

自分史 作品集 研究報告 記念誌 業績集 旬集 エッセイ集 写真集

**本づくり応援** 品質・デザイン力に自信あり!

プロのスタッフが校正作業をサポートします!  
プロのデザイナーがデザイン力を発揮します!

- 規格・装丁のご提案
- 編集方針のご提案
- レイアウト見本のご提示
- 原稿作りのアドバイス
- 予算のお見積り
- その他、ご相談承ります。

ご注文・お問い合わせは 印刷営業部 TEL (089)945-0112 FAX (089)947-6073

SEKI セキ株式会社

四国中央市川之江町1丁目1-1 TEL (089)945-0111  
www.seki.co.jp 四国中央市川之江町1丁目2番 TEL (03)5377-1230  
多岐ノ大町 印刷・製本 TEL (089)945-0111 http://www.seki.co.jp

# 特集 旅 たび

## 久々の夫婦旅



中東原市長  
西条市立  
岸田 英之

昨夏、二十数年ぶりに妻と二人で旅行に出かけた。中学校勤務のため部活動が毎日のようにあり、長期休暇でさえもまとまった休みが取れなかった。教頭職にあっても、学校の事情で部活動を受け持たざるを得なかった。それが昨年、やっと部活動を離れて若干の余裕ができた。夏休みの直前、久々にどこかへ旅行に行こうという話になった。

共通の休みは二日間しか取れなかった。インターネットでいろいろと調べて、妻と相談した結果、和歌山県白浜町のアドベンチャーワールドへ行くことにした。夫婦ともに根っからの動物好き、一昨年の冬に愛犬を亡くしてからは寂しい思いをしていた。その頃アドベンチャーワールドには、生後八か月の双子パンダがいた。それを見たいがために、六時間もの運転をものともせず白浜へと向かった。行ってみると、その広さと数多くのアトラクションには驚いた。事前にネットで調べてはいたが、想像をはるかに超える規模だった。イルカショーにアニマルショー、サファリパークツアーに動物ふれあい体験、他にもたくさんイベントがあつて全てを体験することはできなかった。そしてお目当ての双子パンダ。昼過ぎだったので見物客が少なく、間近で十分に堪能できた。その可愛さたるや、まさに動くぬいぐるみ、写真

## 祝 受章おめでとうございます

◇瑞宝双光章（高齢者叙勲）

門岡 武雄様 88歳 元玉川町立九和小学校長 今治市  
川中 友吉様 88歳 元広見町立広見中学校校長 宇和島市

## ものより思い出



中花立論  
今治市教諭  
山本真美恵

を撮りまくったのは言うまでもない。妻は、もう一度行きたいと言っている。今度は徳島からフェリーで行くでしょう。

我が家の団らんは旅にある。春は桜、夏は涼、秋は紅葉、冬は温泉。私と夫、二人の娘、そしてそれぞれの母を伴っての六人旅だ。

夫は「おもてなし精神」の持ち主だ。唯一の男として、その存在感を示すべくプランを立てる。名所、名物、お得情報。中味は盛り沢山だ。京都の蹴鞠、高千穂神楽。歴史探訪はお手のもの。劇団四季から吉本まで、バラエティーにも富んでいる。

しかし、難点がなくもない。とにかく時間に厳格なのだ。移動時間は分刻み。食事場所も駐車場もリサーチ済みだ。プランの遂行に一途な夫は、目的地に向かってまっしぐら。高齢の母たちも、軍隊さ

ながらに歩かされる。しかも、隊長と化した夫の歩みは、足の長さに反して意外に速い。結局、夫の「おもてなし精神」は裏目に出て、女たちの不興を買うのが常である。しかし、それでも毎回、美しい風景、美味しい食べ物、歴史情緒を味わわせてくれることに感謝している。お金はないけれど、思い出は山ほどできた。しかし、こんな年中行事も、娘たちが家を離れてからはご無沙汰だ。

吉野の桜、木曾路の山並み、嵐山の紅葉、指宿の砂風呂。旅番組に映し出される風景になった母が言う。「ここ連れて行ってもらたね。楽しかったね。」その一言が、少しだけ親孝行した気にさせてくれる。「ものより思い出」久しぶりに、家族団らんの旅に出かけてみようか。

## 燕市で故郷の偉人に 思いを馳せる



小島居論  
松山市教諭  
平野 優子

八月二十七・二十八日に新潟県燕市を訪問しました。「松山市・燕市交流事業」として、興居島小学校六年生児童が、燕市から招待されたのです。保護者、学校長、学級担任等も同行しました。

燕市は、「ヤクルトスワローズ」を応援しているそうです。スワローズが松山でキャンプをしている縁で、交流が始まったのです。その後、「松山は、信濃川の工事をした宮本武之輔さんの故郷。今の新潟が米どころとなり、人々が安心して暮らせるのは、何度も洪水を起こした信濃川を分水し、可動堰を作った武之輔さんのおかげ。この縁を大切にしていこう。」と、武之輔さんの出身地、興居島との交流がスタートしました。

一日目は、市長室表敬訪問、産業史料館見学、スプーン作り体験（燕市は洋食器生産日本一）、地元の分水小学校児童との交流。二日目は、横田切れ（明治時代の大洪水）跡見学、分水資料館・可動堰見学、「横田切れ百二十年シンポジウム」出席と、貴重な経験を重ねる二日間となりました。武之輔さんが工事した可動

堰は、八十年間活躍しました。新しい堰が完成し、古い堰の取り壊しの話が出た際、「武之輔さんの功績とご恩を忘れたくない。」と、保存運動があったそうです。今は、十基の中の三基が残っています。児童は、地元の小学生との交流が心に残ったようです。はるか新潟で、故郷の偉人の功績に出会えた、感動と発見の旅となりました。



### 東北一年旅



八幡浜教育会  
OB  
大西 逸子

退職後は、土木技師としての経験を生かし、東日本大震災の復興支援に携わりたいと

いう主人の意向から、私も主人の生活サポートのため岩手県宮古市で昨年一年間を過ごしました。

宮古市は、八幡浜市と地形も産業も似通っている地域で、すぐに親しみがわきました。市の至る所に津波の高さが表示されていて、その怖さを物語っていました。宮古市役所の技師は九十人近くいたそうですが、その三分の二が全国各地から来られている支援者だそうです。その数に驚きました。

陸前高田市の奇跡の一本松を見に行く中、引つ切りなしにトラックに出会い、海岸地域は造成工事に追われていました。どこまでも続く土砂の山に、津波の怖さ・被害の大きさを思うと同時に、復興への熱い想い・確かな歩みを感じました。また、甚大な被害で知られている宮古市田老町では、震災後初めての大漁祭りが開催され、多くの人が集い、御神体も五年ぶりに海に奉納されました。人々の喜びの様子を目の当たりにし、地域の絆・復興への兆しも確かに感じる事ができました。また、様々な人に出会い、津

波のすさまじさや助けあうことへの素晴らしさ、前向きに生きることの大切さを学びました。景勝地や夏祭り等にも出かけ、東北の歴史や文化にふれ、その力強さやよさを肌で感じる事ができ、ますます東北が好きになりました。

この一年間で、今までにならぬ経験をする事ができ、人生のいい思い出になりました。四・五年後、また主人と訪れたいと思っています。東日本の早急な復興と発展、そして皆様の幸せを心からお祈りいたします。



### 三世代の旅



南宇和教育会  
OB  
前田 充

二月の末の土曜日、宇和島発六時三十六分岡山行き列車で私と娘は出発した。春休みに入った孫を誘っての、初めての三世代の旅である。孫とは岡山の駅で合流することになっていた。

岡山から京都までは、のぞみで一時間足らずで着く。ホテルに荷物を預けて私たちは観光タクシーを頼み、京都市街の観光に出かけた。

最初に訪れたのは、孫のたつての希望で伏見稲荷大社である。伏見稲荷の本殿は見事なものであった。大勢の観光客に混じって私たちは朱の鳥居をくぐった。

娘と孫に  
支えられつつ登りゆく  
伏見稲荷の千本鳥居  
次に訪れたのは東寺である。東寺の五重塔はあまりにも有名で、広い境内には外国の観光客も多かった。丁度五重塔のご開帳の日とあって、塔の内部を拝観することが出来たのは幸運であった。

五重塔  
ご開帳の日に巡り合い  
しみじみ仰ぐその心柱  
最後に二条城を訪れた。きらびやかな門をくぐり、広大

な庭園を巡り、城内を回った。これまでも何度か訪れた二条城ではあるが、来る度にその偉容に圧倒される。襖絵一枚にも歴史の重みを感じさせられる。

大政奉還されしといふ座敷も見えて過ぐる  
鶯張りの廊下踏み行く  
何でもないことに笑いさざめきながら、三人の旅の第一日はこうして終わった。  
一泊二日の短い旅ではあったが、思い出多い旅となった。

### いよてつ高島屋 ローズカードご入会のおすすめ

※1 組合員様は商品 を5%引きで購入いただけます。売場奉仕品、優待会、カタログ、通販販売の商品は2%引きのお支払です。 ※1(特別奉仕品・生鮮食品等の割引対象商品を除く)

お歳暮の期間中、「外商常得意様承りコーナー」にて推奨品に限り推奨価格(10%引き)で購入できます。



お問い合わせは  
愛媛県学校生活協同組合連合会  
電話 (089) 925-0555  
または 郡市学校生活協同組合

# 第68回日本連合教育会 研究大会 栃木大会 印象記



日光東照宮唐門 (国宝)

## ◆第二分科会 (学習指導)



吉中市長  
今治市校長  
藤田 晋司

第二分科会では「豊かなかわりあいの中で、学ぶ意欲を高める学習指導」を研究協議議題に、三つの提案発表と小グループでの協議が行われた。

堺市教育会からは、「学びを実感できる探究的学習のあり方」体験、協働を重視した総合的な学習の取組を通して「」について、堺市立北八下小学校の取組が発表された。毎年五年生で行っている米つきりという体験活動に対して、課題設定の場での体験と課題追求の場での協働に重点を置き探究的な学習を工夫し

たことよって、子どもたちが主体的に取り組んだり、お米に対する見方や考えを深めたりしているところに、その成果が十分うかがえる素晴らしい内容だった。

次に、春日井授業研究会からは、「名曲を見せよう！」プラスチックアニメを取り入れた音楽科鑑賞授業」について、名古屋市立田代小学校の取組が発表された。プラスチックアニメとは、音を、まるで見るように、身体の動きで表現する音楽のことである。スポーツでもダンスでもない視覚芸術としての身体表現様式なので、「踊る」のではなく「動く」、「振り付け」ではなく「表現」と言う。確かに小学校低学年の児童がグループ全員で役割分担し、鑑賞を身体表現する姿は楽しそうに、仲良く協力し合う学級づくりの寄与しているように感じた。

栃木県連合教育会からは、「豊かなかわりあいの中で学ぶ意欲を高める学習指導の推進」大学と連携を図った実践を通して」について、主に下野市立薬師寺小学校の取組が発表された。S&Uコラボ事業とは、下野市内の全小

中学校(十六校)と宇都宮大学が協力し合って授業研究を行い学習指導の推進を目指す事業で、過去七年間の実績がある。本校が国語科の全国大会のために取り組んできた「学び合い」学習に、小学校段階から計画的に取り組まれていることに驚かされた。

最後に、栃木県総合教育センター、和田安史指導主事から「学ぶ意欲の源は、知的好奇心、有能さへの欲求、向社会的欲求の三つの欲求・動機である。学ぶ意欲を育むには欲求・動機、学習活動、認知・感情の各プロセスにおける教師の意図的な働きかけが有効である。」とご助言いただいた。他県のそれぞれの学校の状況に応じた学習意欲を高めるための取組に、直接触れることができ、大変実りの多い研修となった。

## ◆第三分科会 (道徳教育)



小見川市潮見  
中山 正信

研究協議議題が「豊かな人間性とたくましい実践力を育む道徳教育」という第三分科会に参加させて頂いた。特に、道徳性を養うための授業の在

り方に焦点を当て、三名のご発表、グループや全体で意見交換がなされた。

○発表一 我が愛媛県からは、松山市立潮見小学校の赤松聖則先生による「ねらいにぶれない道徳の授業づくり」価値観分析に基づいた補助発問の工夫を通して」が提案された。道徳授業をいかに充実させていくか、現役の教師にとって共通した課題である。発問により子どもたちを悩ませてしまったり、価値を十分深めることができなかつたりした経験は誰にもある。このような悩みより研究をスタートさせ、解決するために価値観分析に焦点を当て、それに基づいた効果的な補助発問を研究されている。実践的で焦点化した発表でありとても分かりやすいと、出席者の方々が助言者の先生から多くの賛同を得る発表であった。

○発表二 埼玉県からは、桶川市教育センターの小淵雄司先生による「主体的に生きていく子どもたちを育むための道徳科の授業」校歌を教材にした「考える授業」の構想」である。多面的・多角的に考えたたり、感動を覚えたりするような教材の開発。その教材とは、どの学校にも存在する校歌。校歌がもたらす効果、①道徳の内容と関わりが深い

り方に焦点を当て、三名のご発表、グループや全体で意見交換がなされた。



歌詞、②歌って引き出す道徳心、等。おもしろい着眼点で、どの学校でも教材開発ができる興味ある内容であった。

○発表三 最後に地元栃木県からは、小山市立小山第三小学校の森田美幸先生による「思いやりのあるたくましい子ども」の育成」伝え合い響き合う道徳の授業を通して」である。授業の重点五点で確実な授業実践がされていた。①本時のねらいの焦点化、②発問の吟味、③教師のコーディネート、④価値の深化、⑤「私たちの道徳」の活用である。

三人のご発表後、熱く協議する現職と経験豊かなOB方によるアクティブ・ラーニングが繰り返された。特別の教科となる道徳であるが、変わるものと変わらないもの、しっかりと見極める。大切なものは、子どもたちの豊かな人間性を求め、授業改善を図ろうとする教師の意欲・関心の高まりではないか、そう感じた分科会であった。

◆第七分科会  
(人権教育)



中海町南愛南  
頭教幸田 健一

第七分科会では、研究協議  
題を「生きる力」を育む中で  
一人一人の人権意識を高める  
人権教育として二つの提案を  
基に活発な研究協議が行われ  
ました。

提案の一本目は、長崎県教  
育会の長崎市立銭座小学校伊  
藤教諭の発表でした。研究主  
題は、「お互いのよさや違い  
を認め、人を思いやり支え合  
う子どもの育成」・「思いを伝  
える」・「人とつながる」・「学  
び合う」活動の工夫」で、  
道徳・各教科の授業実践によ  
る心の育成、体験的な活動に  
よる人とつながる力の育成、  
人権教育の日常化を図る取組  
でした。

特に体験的な活動での被爆  
した小学校として、熊本県の  
小学校との交流会について  
は、「火のトンネル」等の素晴  
らしい取組に感動しました。

二本目は、栃木県連合教育  
会の足利市立名草小学校の池  
田教諭の発表でした。研究主  
題は、「お互いに認め合い、  
励まし合って、主体的に行動

できる子どもの育成」常に子  
どもに寄り添い、子どもの心  
を感じとり支えることができ  
る教師」で発表されました。  
研究の実際は、学習指導・  
学級経営・保護者啓発・教職員  
の人権感覚を深めるための研  
修を中心に発表されました。

特に印象に残ったのは、被  
差別体験者との交流・研修で  
す。自分の勤務地であり、出  
身地でもある南宇和郡の活動  
と照らし合わせ、「差別の現  
実に学ぶ」という原点に戻り、  
一層研修を積み必要性を感じ  
ました。

グループ協議では、都市部  
では、すでに始まっている教  
師の若年層の研修を進めてい  
かなければいけないことを痛  
感しました。教師の人権感覚  
を磨くことが、児童・生徒の  
人権感覚を高める早道です。  
自分が若い時、人権教育の授  
業実践をしたことや研修した  
ことを思い出しました。また、  
特別支援教育に関係する事象  
も発生しています。生徒理解  
を進め、一人一人の人権感覚  
を育て、より良い学校生活や  
将来の明るい社会生活を送れ  
るようにしたいものです。

研修終了後、これからも児  
童・生徒のために私自身の残  
りの教師生活を精一杯頑張っ  
ていこうと思えました。

◆第九分科会  
(小学校・中学校の連携)



局事務研愛教  
長千恵美 富

本分科会では、「九年間を  
見通した学びの連続性を確保  
する小中連携」を協議題に掲  
げ、「児童生徒の心身の発達  
を十分考慮した、九年間を見  
通した教育課程の在り方」と  
「小中学校教員のそれぞれの  
特質を踏まえた組織的な指導  
体制の在り方」を協議の柱と  
して会が進められた。

まずは、平成二十四年度か  
らキャリア教育を柱とした小  
中一貫教育の研究に取り組ん  
でいる茨城県つくば市立豊里  
学園（豊里中学校と近隣の三  
小学校）の実践が報告された。  
ここでは、九年間がつながる  
カリキュラムづくりと授業ス  
タイルの確立を車の両輪とし  
て実践を積み、自尊感情や将  
来に対する意識の好転等の成  
果が報告された。

もう一校、平成二十六年四  
月に校舎一体型の小中一貫校  
として開校した栃木県の塩原  
市立塩原小中学校の実践が報  
告された。小中併せて百二十  
名ほどの小規模校であるが、  
小一、小四、小五、中一、中

二・三の三期制をとり、各ブ  
ロック毎に明確な児童生徒像  
を掲げ、朝会や文化的・体育  
的行事等も全体だけでなくブ  
ロック毎にも行ったりしてい  
る。「地域学習」と「英語教育」  
を特色ある教育活動として位  
置付け、九年間を見通した連  
続したカリキュラムを編成  
し、小中の教師間で相互乗り  
入れの授業も行っている。開  
校三年目ではあるが着実に成  
果を収め、改正学校教育法の  
施行を受け、二十九年度から  
は「義務教育学校」に移行す  
る見通しとなっている。

この後、各県入り交じった  
五・六人ずつ十五の小グルー  
プに分かれ、本テーマにかか  
る活発な協議が行われた。  
最後に栃木県教委那須教育  
事務所の相馬幸男副主幹から  
指導助言をいただいた。小中  
連携・小中一貫のねらいとし  
て、①教育効果を高める、②  
児童生徒の実態に合わせた  
六・三制の見直し、③中一  
ギャップの緩和を挙げられ  
た。大事なことは、本会でも  
議論されたように、九年間を  
見通し重点を明確にした分か  
りやすいカリキュラムの作成  
であり、そのためにも、小中  
教員がそれぞれのよさを生か

し、連携・協力することが不  
可欠であると痛感した。

◆青年教師の会に参加して



小由並  
教諭北本 智章

この夏、栃木県での研究大  
会に参加させていただいた。  
私は、青年教師の会に参加し、  
他県、他校種の先生方と交流  
をすることができた。  
テーマは、「心のキャッチ  
ボールを」子ども笑顔  
求めて」だった。

まず、栃木県内の小中学校  
の取組を聞いた。各校とも特  
色を生かした活動を行ってお  
り、子どもたちがきらきらし  
ていた。  
次に、小グループに分かれ  
てそれぞれの取組を話し合っ  
た。他県の先生方の話を聞く  
と、すごく新鮮で、よい刺激  
になった。校種、都道府県が  
違っても子どもを思う気持ち  
は変わらないと感じた。

今回学んだことを二学期以  
降の学校生活に生かし、子ど  
もたちとさらさらした学校生  
活を送りたい。

訂正 十月号六面の慶祝者欄で、新居浜教育会の西原洋昂様を  
西崎洋昂と誤記しましたことをお詫びし、訂正します。

ふるさとスケッチ

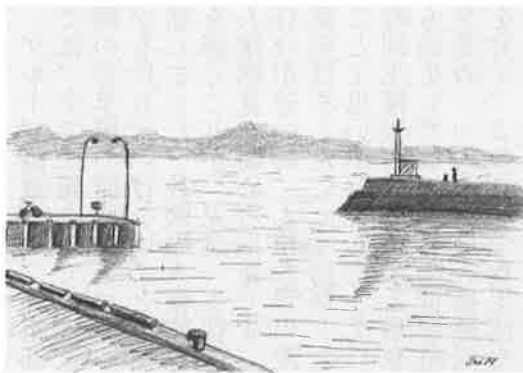
No.394

堀江港



宮内市山松 論佐 眞部 佐恵

堀江港は、かつて、阿賀・呉行フェリーが出入りし、賑わいのある港でした。廃港になつてからは、隣接する漁港の活気とは対照的に、静かで、時折釣り人の会話が聞こえるのみです。往時の切符売り場は「うみてらす」として、地域の人々や釣り人の憩いの場になつています。ところが、この廃港が年に一度、元気で



華やかになるときがあり、それが、「堀江港祭り」です。花火や屋台、歩けない程の人ごみ…。この二つの顔を持つ堀江港は、何と味わい深いものでしょう。

ご冥福をお祈りします

山本恵美子様	坂和夫様	山岡重信様	村上喜代幸様	阿部茂樹様	佐川敬様	渡辺弘様	徳永フミコ様	毛利久夫様	橋本英厚様	金久輝男様	正岡和夫様	玉井忠雄様	河野健二様	平田守様	柳原慎倍様
97歳	79歳	87歳	85歳	83歳	83歳	91歳	106歳	86歳	72歳	87歳	89歳	92歳	64歳	86歳	83歳
松山市谷町潮見団地三二五	横浜市金沢区能見台三二一五二二〇号	静岡市駿河区谷田一八四〇	越智郡上島町岩城三三六	新居浜市南小松原町二〇二二	大洲市新谷甲五五三	今治市中日吉町一八五	松山市余戸東四丁目二〇	西宇和郡伊方町大江一五	松山市北条辻五二四	西条市小松町新屋敷甲六三二一	今治市高橋甲五三一	今治市北日吉町一三三	東温市見奈良三八七三	八幡浜市広瀬一三三	今治市吉海町本庄九三三
27.6	27.10	28.3	28.9	28.4	28.8	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9
6	23	1	1	4	4	9	11	13	14	17	18	21	26	26	28

ローカルトピックス

三芳祝太鼓



ドンドントカツカツト勇壮華麗な和太鼓の音。演奏者と観客の心を一つに結びます。運動会恒例の三芳祝太鼓の演奏です。この日は揃いのTシャツですが、普段は赤と黒等の揃いのハッピに小さなねじり鉢巻を頭に載せとても華やかです。

小学校落成記念で寄贈された四張の太鼓がきっかけで誕生し、現在の「三芳祝太鼓保存会」を平成七年に結成。地域の大人に支えられ、二十四名の三芳小学校児童で構成されています。小学生ながら和楽器の魅力を理解し、地域文化の振興・伝統芸能の保存に努め、秋祭りや市や県の各

種イベントでは大人気を博しています。今秋西条市で開催される古代山城サミットや、「えひめ教育の日」フェスティバルにも出場します。子どもたちは、多くの人に和太鼓の音に慣れ親しんでほしい、と練習に励んでいます。  
文教月報編集協力委員 飯尾百合子  
西条市三芳小学校教頭

お知らせ

◆愛媛県教育会短歌・川柳・自由律俳句募集中  
六月号でお知らせしたとおり短歌・川柳・自由律俳句を募集しています。締切は平成二十九年一月二十六日(木)までです。応募作品は文教月報三月号に掲載する予定です。奮って御応募ください。(詳細は六月号及びホームページ参照)

◆寄贈図書

文教会館図書室では、教育関係図書、児童生徒用図書、教育会関係資料、句集等をご自由に閲覧、貸出が出来ます。この度左記の図書等をご寄贈いただきました。  
◆心の読書記録 望月 森生氏  
◆伊賀上令子画集 小寺きみ子氏  
◆よもだ通信 金本 房夫氏

ぶんきょうの  
**忘年会・新年会**  
メニューもますます充実  
ご予約は、皆様の会館  
エスポワール**文教会館** ☎(089)945-8644  
fax(089)932-0380

**ガソリンカード** ご入会のおすすめ  
全国のサービスステーションでご利用頂ける「エネオス」と「コスモ石油」のガソリンカード。  
ご利用代金は給与から引き去りできて便利!!  
毎月更新の給油価格は、愛媛県学校生活協HPにてご確認下さい。  
お問い合わせは  
愛媛県学校生活協同組合連合会  
電話 (089) 925-0555  
または 郡市学校生活協同組合  
http://www.ehime-gakuseikyou.jp